

日本の地球科学系の学会場における育児支援について

The childcare support system in several scientific meetings in Japan

木戸 ゆかり [1]

Yukari Kido [1]

[1] 海洋開発機構・地球内部センター

[1] IFREE, JAMSTEC

http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/jamstec_guide/IFREE/index.html

国内の学会では、日本天文学会 1997 年春季大会より、学会期間中に会場内に保育室が設置された。これをモデルとし、1998 年度合同大会、地質学会、地震学会秋季大会、と地球科学系の学会での保育室が続々と立ち上がった。

1998 年以前にも、ワークショップや勉強会などに簡易型の臨時ベビールームを併設した例もあり、多様化した学会員のライフスタイルに合わせるように発生したと考えられる。

形態は各学会で様々であり、大学の空き教室にカーペットを敷き詰めた臨時託児室あり、教育学部用の和室やダンス教室などを用いた例、周囲の

ホテル内の一室を借りたり、既存のベビールームを利用する、など特色豊である。各学会事務局、現地運営委員会、保育室設置のボランティア、ベビーシッター会社など多くの連携により、数々の学会保育室が今まで大きな事故もなく、設置され、利用会員を支えてきた。

しかしながら、どの学会においても、初回立ち上げには、予想を超えた問題や学会場での設置に対する疑問の声への対応などに直面した。先に成功した団体からの話を聞き、情報を集め、主催者の協力を受けながら、様々なハードルを乗り越えて初回、2 回目、と回を増やしていくことができた。

本講演では、地球惑星科学の学会における保育室の設置例、その歴史、取り組みの紹介を行い、今後の課題に向けての話題を提供する。